

宗岡中だより



5月号 令和2年5月1日(金)
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

「春暖の 学び舎に活気 いつ戻る」

校長 佐藤哲浩

新緑の季節を迎えたとはいえ、度重なる学校再開の延期により、生徒も保護者もモチベーションが上がらず、疲弊しているのではないのでしょうか。一方、「授業時数が足りず、学力は保証されるのか」、逆に「新型コロナウイルスが完全に収まっていないのに、学校を再開して生徒の安全性は確保されるのか」など、不安を抱えている方も多いことと思います。本校としても運営委員会を中心として、学校行事の削減、振替休業日の授業実施等を検討し、例年の授業時数を確保できるように教育課程を再編成している次第です。



話は変わって、「これだけ学校再開が遅れているのなら、いっそのこと日本の教育制度そのものを、欧米と同じように9月始まりにしてはどうか？」という案が自治体やある政党から挙がっており、内閣も前広に検討すると表明し衆院予算委員会では話題になっています。私自身としては、留学する場合などはメリットがありますが、定着させるには教育界だけでなく日本の社会全体を改革しなければいけないため、新型コロナウイルスの感染を機に改革するのはどうかと思っています。でも、百年に一度の禍と言われている今年、社会制度を大改革するチャンスであるのも事実だと思います。

ところで、なぜ日本の年度の始まりが4月で、欧米諸国は9月が多いのでしょうか？寺子屋や藩校、私塾など、江戸時代には子どもたちが学ぶ場所は存在していましたが、4月始まりという法令はありませんでした。その後、明治時代に入ってから西洋文化の影響もあり、学校の中には9月入学を取り入れる学校も出てきます。そして、明治19年に財政法が施行され、国の会計年度（4月1日～翌年3月31日までを区切りとして、お金の歳出入を管理する）が4月始まりになったことをきっかけに、高等師範学校が4月始まりとなり、大正時代以降、他の高校や大学でも4月始まりが取り入れられるようになったのです。現在は、学校教育法施行規則第59条、公立小中学校管理規則第2条に、「学校の学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる」と定められているのです。

一方、欧米諸国はなぜ9月始まりが多いのでしょうか。一説には欧米の農業が大きく関係していると言われています。18世紀から19世紀にかけて、多くの学校では1年の農業の予定に合わせて開校時期が決められていました。1年の中で特に7月から8月に収穫を迎える農作物が多かったため、農業を行っている家庭では、この時期には子どもの手を借りたいほどの忙しさとなります。つまり、家族総出で収穫を行わなければならなかったことから、学校が始まるベストな時期は、農閑期に入り子どもたちの足並みがそろった9月とされたのです。いずれにせよ、私自身は早く宗岡中学校の教育活動の再開を願うばかりです。